

# 早期認知症外来について

北河内藤井病院 リハビリテーション科 林 秀明

人の高次機能障害のうちの一つが認知症です。他には注意障害や遂行機能障害があり、いずれも自分で自分の思う事を、他の人と協調しながら行う社会生活の基本的な能力が低下した状態です。

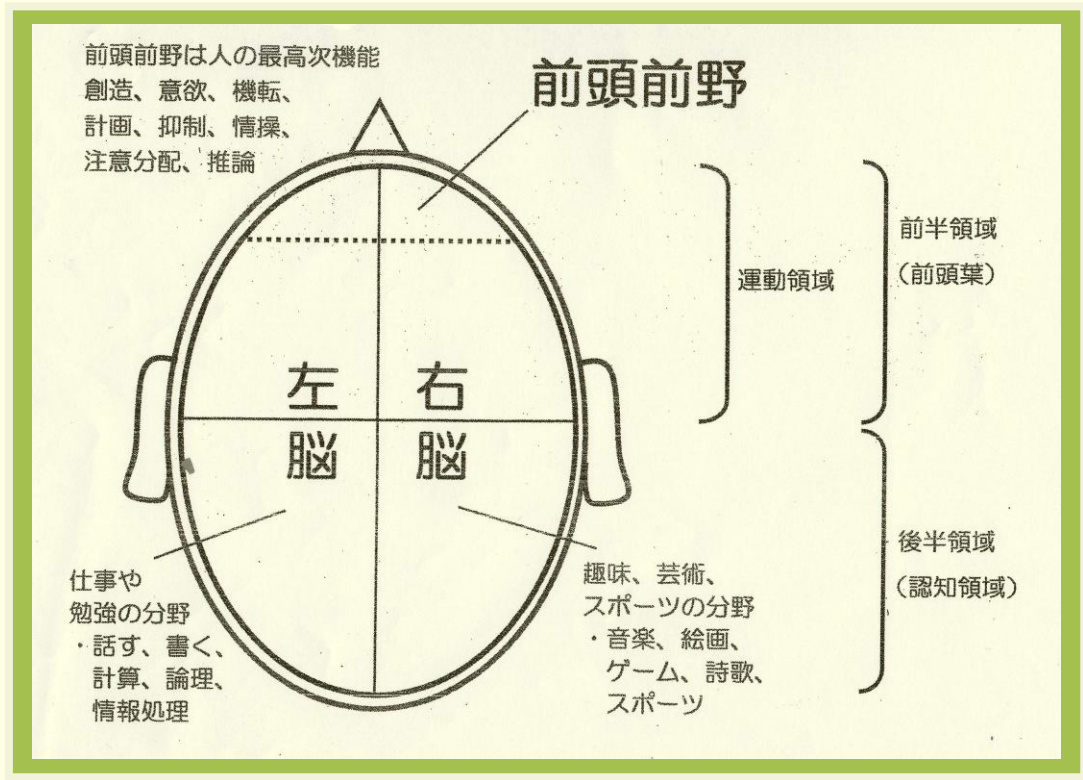
認知症は、年齢と共に増えてきます。その原因となる疾患にはアルツハイマー型認知症や血管性認知症があり、更により少ないですが前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症や緩徐進行性失語等があります。その診断は神経学的診察と神経心理テスト、頭部CT、MRIや血液検査、更に必要に応じて脳血流測定と脳代謝測定を行い、総合的に行います。

いままでの認知症の治療から認知症の治療には、早期発見、早期診断が重要である事がわかっています。また重症化してからは、改善が難しいという事実があります。

認知症には、アルツハイマー型認知症や血管性認知症が多いように思われていますが、そのほかの認知症においても、まずおこる事は自発性の低下であり、社会性が低下してくる事です。この状態を軽度認知障害といい、日常生活は自立していますが、放置すると軽度から中等度、重度と進みます。そしてどのような認知症においても、重度となると自立性はなくなり座ることも出来ず、体全体に廃用性の萎縮がおこってきます。軽度の状態の時に頭の廃用性の萎縮がおこって来ている事を発見することが重要です。大脳の前頭葉に前頭前野と呼ばれる部位があります。ここで物事の判断が行われ、また創造、機転、抑制などが行われています。この部位の機能は、優位半球である左脳から数字や言語などの論理的情報を受け取り、感性の脳である右脳から美しいものを理解したり、音楽に感動したりする情報を受け取り、人の行動を決定する事です。この前頭前野の機能がさびついてくると、何もしたくないと思うようになり、その人の創造性が失われ、記憶障害や見当識障害がおこってきます。また感情的な障害もおこってきます。不安になり不眠が続くようになります。

早期に認知障害を見つけて、感性の脳である右脳を活性化する脳のリハビリテーションを行い、前頭前野の機能を改善させ、認知症の進行を防ぐことが可能です。

早期に認知症を発見し、脳の活性化を図ることで、認知症の治療が可能です。



早期認知症外来は、脳活性化リハビリテーションを行い、認知症の進行を防いでいきます。

○肉體運動が基本です。散歩を基本に体を動かしていきます。

朝の散歩、自分の体力に合ったスポーツ。

○趣味を持って友達を作る

歌を歌ったり、楽器を演奏する。俳句、短歌を楽しむ。

○夫婦、家族でゲームを楽しむ

トランプ、花札、囲碁、将棋やスポーツマージャン

○家族同士がやさしい言葉かけをする

脳のリハビリテーションを行い、投薬加療も行います。